

特集

東日本大震災

郡山市医療介護病院

この度の東日本大震災でお亡くなりになった方々にお悔やみを申し上げるとともに、被災に遭われたみな様に心よりお見舞い申し上げます。

さて、当院でも大震災により様々なことが起こりました。三月十一日から一週間、私たちの病院に何が起こったのか、特集“ということでもまとめました。大震災から三ヶ月がたちますが、県内でもいまだに被災が続いています。この間、たくさんの方々からご心配やご支援、ご協力をいただきありがとうございます。この場をお借りして御礼申し上げます。

また、市内の医療支援は郡山医師会として震災直後から始まっていますが、私たちは四月当初から避難所の方々の生活支援をはじめました。これからの郡山医師会の病院として、できることを職員が協力して行っていくと考えています。

平成23年3月13日(日)

- ・早朝7時地域の方々へ、貯水タンクの水がなくなったこと、後方支援の病院の役割など説明し、郡山市の避難所への案内を始める。
- ・他の避難所への移動が困難な方々への支援ということで地域連携室による相談を始める。相談窓口の設置。
- ・夜には、大半の地域の方が郡山市の避難所へ移動される。
- ・本日よりリハ室の片付けと他院の受け入れ準備開始。
- ・他院の入院患者の受け入れ。(4名)
- ・郡山市の担当課による給水車が当院にも回るようになる。
- ・看護部、職員家族(子ども)の日中の受け入れを始める。(通所にてスタッフによる対応なども行われる)



平成23年3月14日(月)

- ・外来、通常の診療が始まる。(内科外来は9時~17時)
- ・リハ室はH病院として医師、スタッフが運用していくことになる。H病院からの移動がはじまる。(10名)
- ・ガソリン不足により、物流がとまることが問題となってくる。(薬、医療資材、物品、リネン類のストップ)
- ・水不足は深刻な状況になってくる。(17日まで続く)
- ・各部署で、入院家族、職員自宅などからの水の支援が続く。

平成23年3月15日(火)~

- ・物がないうちで、制限しながら病院機能の維持を行う。
- ・関係業者よりガソリン不足での物流の休止の連絡あり。
- ・職員、地域のみなさんから布の寄付が多数集まる。
- ・水道が復旧し、非常時の体制は継続しているが、22日より入浴なども不自由ながら開始する。
- ・18日~ホームページの更新可能になる。(在宅勤務スタッフが北海道より更新開始)

平成23年4月1日(金)~

- ・通常業務へ移行する。



子どもたちの笑顔は私たちの希望です! この子どもたちのためにも、うつくしい福島をふたたび取り戻しましょう!!

地震(M9.0)発生からの経過-1日目

- 平成23年3月11日(金) 気温-4.6℃~6.4℃、降水量0.0mm、時々吹雪
- 14:46 地震発生:市役所本庁舎使用不能、保健所停電  
医療介護病院は、書類等散乱するも診療に支障なし  
当院通所リハビリご利用者で、帰宅できない方数名病棟で対応
  - 17:00 郡山市医療介護病院に郡山医師会災害対策本部設置  
郡山市野球場に救護室設置(原、市保健師3名)
  - 18:00 郡山市災害対策本部会議、市内22ヶ所に避難所設置  
野球場の屋内だけでも避難者800名を超える  
一人当たり水(5Lポリ袋)とおにぎり2個、毛布1枚配布。  
※野球場救護所:初めの数時間は、動悸やふるえ等の方が多く、数時間後からは、擦り傷や切り傷、打撲傷の方が増加(湿布等不足)  
ベッド5台中3台は直ぐに埋まり(軽症)、2台を処置と診察に使用  
※身障センターに避難した気管切開の方等を郡山市医療介護病院に搬送
  - 23:00頃から ビッグアイ、にこにこ館、その他複数の避難所から発熱等体調不良者の連絡があり、保健師と男性事務員派遣



(資料 原院長)

事務室では幸いなことに書庫などの転倒はありませんでした。しかし、机の上のものはほとんど元の状態をとどめてはいませんでした。



病棟は、棚や書庫の中のものが散乱!

下記は、原院長が撮影した郡山野球場の市災害対策本部救護室の様子です。



平成23年3月12日(土)

- ・テレビなどによる報道で、さらに被災が拡大していくことがわかる。
- ・貯水タンクの水が減り回復しないことで、郡山市水道が断水していることが判明する。
- ・節水のお願いと、トイレなどの水の使用について対策を立てる。栄養給食料をはじめ各科の協力体制ができる。
- ・郡山医師会災害対策本部より、市内の病院の状況の報告があり、H病院の入院患者の受け入れについて検討。当面定員超過での対応をすることとする。その後さらに入院患者がいることがわかり、受け入れについて検討していくこととした。→1病棟への受け入れを開始。(3名)
- ・14日(月)からの体制について確認する。通常の医療の体制への準備と、地域の方々への対応について検討する。
- ・病棟では節水や他院からの患者受け入れの体制について連日準備や対応に追われる。
- ・夜間は地域の方々70名程度。おにぎりの提供続ける。

平成23年3月11日(金)

- ・午後2時46分頃 地震発生
- ・各部署の被災状況の確認~病院内全員の無事を確認する。
- ・建物への大きな被害はなかったが、書庫や書類の散乱が激しい。
- ・テレビのニュースなどで地震、津波の被害など、大変な状況が明らかになってくる。
- ・地震後より地域の方々が集まってくる。
- ・郡山医師会災害対策本部の設置
- ・院長は開成山球場の救護所へつめる。
- ・通りハでは利用者の安全を優先した送迎の対策と、家族への連絡をはじめめる。
- ・夕方より院内の関連部署合同のミーティング実施。
- ・玄関などに「休憩所」の貼り紙
- ・夜間は100名近い近隣の方々が避難してくる。
- ・厨房でおにぎりなどの準備を行う。
- ・リハ室、カンファ室へありったけのマットレスやシーツ、毛布などを準備する。
- ・病棟は3名体制での夜勤を組む。
- ・菅首相県内一部の地域の避難指示、自宅退避の発表。



(左)薬局



(右)医局

書庫や棚が倒れ、中のものが全て散乱した医局。



おにぎり・毛布等を提供する  
3日目は二十名が避難された  
初日は百名近く  
2日目は七十名

仮眠